

令和5年8月1日

厚生労働省 医政局
医薬産業振興・医療情報企画課
課長 水谷 忠由 殿

公益社団法人日本小児科学会
会長 岡 明



特定非営利活動法人日本小児循環器学会
理事長 山岸 敬



一般社団法人日本川崎病学会
理事長 三谷 義英



人免疫グロブリン製剤の安定供給に係る要望書

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨今の人免疫グロブリン製剤の供給不足に際して、同剤の安定供給を切に要望いたします。

人免疫グロブリン静注療法は現行の川崎病急性期治療ガイドラインにおいて、第一選択薬に位置付けられております。緊急入院時に治療が開始されることが多く、適切な時期に治療できなければ、生涯にわたり生命に関わる冠動脈後遺症を合併するリスクが上昇します。

近年、人免疫グロブリン製剤の需要の増加により在庫が逼迫し、血漿分画製剤の製造販売業者より限定出荷の通知が発出され、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課からも令和5年4月19日付文書「人免疫グロブリン製剤の限定出荷と今後の見込みについて」で警鐘を鳴らしていただきました。しかし、5月末には川崎病診療を担う施設から、同剤の供給不足によりガイドラインに準じた標準治療を実施できないという声が学会に寄せられ、現在多くの施設で今後の状況を危惧しております。同様の状況は、川崎病以外の小児診療（血液疾患、神経疾患、感染症等）でも発生し、我が国の小児医療全体の問題となっております。

人免疫グロブリン製剤の医療機関への限定出荷に関わる指針ならびに増加する需要に見合う供給対策等を含めた安定供給につきまして、何卒よろしくお願い申し上げます。